



▲延べ17万人が訪れた第1回枚方まつりで、北大阪商工会議所東側を通過するパレードの様子。写真中央は当時の北枚市長です（昭和51年）。



◀現在は岡東中央公園を中心に開催しています。



▲友好都市の中村市から応援に駆け付けた提灯みこし。まつりの花形として注目を浴びていました（昭和51年）。

## 夏を彩る市民手作りの

# 枚方まつり

枚方まつりの誕生は昭和51年。そのルーツは昭和31年に始まった「淀川まつり」です。淀川を下る1万個の灯籠や夜空を焦がす打上花火など、夏の風物詩として定着していた淀川まつりは、オイルショックによる景気低迷の影響で昭和50年に中止が決定されました。「まつりは人々を日常から解き放ってくれる貴重な存在でした。復活を望む声はあちこちから聞かれました」と第1回枚方まつり実行委員長の宮崎順平さん（75歳）は振り返ります。「まつりで不況を吹き飛ばしてまちに活気を取り戻そう」。宮崎さんから枚方青年会議所のメンバーが中心となって夏まつりの復活に乗り出しました。友好都市・中村市（現在の四万十市）の青年会議所に参加を呼び掛けたり、資金集めのバザーを開くため市民から提供品を募ったり。「試行錯誤の連続で、みんなで必死にアイデアを出し合いました」。

手作りのまつりにどれだけの人が来てくれるのか不安だった宮崎さんでしたが、当日は家族連れや浴衣を着た人たちがあふれ返りました。枚方市駅周辺には多くの屋台が立ち並び、音楽隊のパレードや中村市の提灯みこしが威勢の良いかけ声とともに練り歩きました。宮崎さんは「開催してくれてありがとう」という声を聞いて嬉しかったです」と当時を振り返ります。

枚方まつりは平成16年から「天の川七夕フェスタ」と一時名称が変わりましたが、平成21年から再び「枚方まつり」として開催され、今も多くの市民で賑わっています。

（平成23年8月号）